

「片瀬・鵜沼・辻堂の地名に迫る！」

藤沢地名の会 布施克彦

第3回:鵜沼の地名について

(2024年7月17日放送)

Q1「鵜沼」にはどのような小字があるのか

旧大字鵜沼は27の小字に分かれています。東は片瀬川、西は引地川。地域は東海道線の北側にも広がりすべてが砂地で、砂丘列が北東から南西に走り、松林で覆われた無人地帯。鵜沼の集落は東海道線の線路を挟んで南北。中心は鵜沼小学校、皇大神宮の辺り

Q2 それぞれの小字の由来について

(砂丘列を物語る地名:上岡・中岡・下岡・藤ヶ谷)

砂地の高いところには「岡」、低いところは「谷」宅地開発で砂丘が崩されたが

今でも高低差が確認できる。高根バス停に地名。江戸時代は無人で砲術の練習場。駒立山(新林公園)から大砲打ち下ろし

(半農半漁村の痕跡となる地名:中井・堀南・内田・奥田・下鵜・上鵜など)

鵜沼村中心地。川の蛇行跡の水利用で農業。中井(鵜沼小)、内田(一中)

堀南(皇大神宮裏池から用水路、本鵜沼駅の北側)砂地農業を補う漁業、上鵜(海岸線片瀬境から辻堂境)下鵜(鵜沼海岸3丁目駅西南側)

(神社の鎮座地に関わる地名:西宮越・南宮越)

鵜沼地区総鎮守の皇大神宮(大庭御厨の中心)の周辺地名。腰⇒越

(無人の荒蕪地の地名:原・藤原・東原・柳原など)

地区の南西(本鵜沼駅以南で小田急線路西側引地川まで)は以前砂地の

無人地帯(その後用水路引いて農地)原、藤原、柳原